

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へそして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2014年11月1日 第74号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>



オープンキャンパス

過去最高参加者数のオープンキャンパス

教授 中嶋 健 (入試委員会委員長)

7月19日(土)、8月10日(日)、9月27日(土) オープンキャンパスが開催された。それぞれ237名、471名、115名、総参加者数823名は過去最高となった。近年、保護者同伴が当たり前になりつつあるが、昨年を50名ほど上回る588名の高校生の参加は、これが本学受験への意欲であれば、大変喜ばしいことである。

8月には猛烈な勢力を持った台風の接近によって近隣大学が早々に開催中止を決定した。しかし、本学ではギリギリまで職員が細かな気象庁情報を収集し、開催を決定した。これが功を奏した。

吉津学長挨拶、木村学部長「大学説明」、高橋キャリア委員長「就職状況とサポート」、「入試説明」、学友会説明と進み、各学科では加来・松本(義)・桐原教員による学科案内、米田・萩原・桐原教員による模擬授業(7月は難波・山川・松本(貴)教員が担当)が開催され、高校生が熱心にノートを取っていた。入試、学生支援・教務、キャリア、国際交流などに関する相談ブースは、各担当教職員が丁寧かつ熱心に対応していた。生協食堂での昼食後、秋山・呉・高路(7月はコレット)教員による語学体験並びにオープンキャンパスと並行して地域共創センター主催の森山教員による「進学における地域選択とキャリア」と題する市民講座も開催された。さらに、佐々木入試副委員長による「小論文対策講座」での高校生の真剣な表情は印象的であった。

キャンパスはコンパクトではあるが、それ故教職員と学生のフレンドリーかつ真摯な繋がりには、50名をこえるマリンプルーのポロシャツに身を包んだ学生広報委員、生協学生委員と職員の活躍によって十分に参加者に伝わった。

大学の真の財産は、そこで学ぶ人と働く人の関係性にある。

大学の一大イベントの1つであるオープンキャンパスの全てのとりまとめをリードした入試班員をはじめ、3回のオープンキャンパスに協力していただいた全ての方に感謝申し上げます。



オープンキャンパスを通して

生協学生委員会委員長 国際商学科2年 薬師寺 淳志
(大分県立大分豊府高等学校出身)

私たち生協学生委員会は毎年大学が主催するオープンキャンパスに「学生スタッフ」として参加するため、高校生の皆さんが来て良かったと思えるような企画を考えて準備を行っています。オープンキャンパスでは学内ツアー、学生ブース、保護者・学生向け説明会を行いました。

学内ツアーでは「学内一周ツアー」、高校生の気になる「サークルツアー」、「教授とお話ツアー」などをしました。どのツアーでも高校生の楽しそうな姿がありました。学生ブースでは学生スタッフが高校生と様々な話題で終始盛り上がりつつある様子でした。さらに、保護者・学生向け説明会では「学生目線での話が聞けて良かった」「大学のことがよく分かった」という声をいただき保護者の方々の不安を少しでも取り除けたのではないかと思います。

今回のオープンキャンパスは過去最高の人数の方々が来てくださり、いろいろと大変なこともありましたが、様々なイベントを通して高校生の楽しんでいる様子を見て大きなミスもなく終わらせることができたと思っています。そして来場いただいた方々には下関市立大学ならではの良さが少しでも分かっていたいただけたのではないかと思います。

私たちと一緒に充実した学生生活を送りませんか。



就職活動

充実した就職支援メニューで応援しています

教授 高橋 和幸 (キャリア委員会委員長)

本学の昨年度の就職決定率は、全国平均を上回る97.9%で、昨年度の実績も上回ることができました。企業の新卒採用意欲が高まっているようなことがいわれ、本年度の本学の決定率も、現時点では前年を上回っています。

このようななか、現4年生で活動中の人は、これまでの活動を振り返りつつ、広い視野をもって取り組んでいただきたいと思いますし、キャリアセンターへも遠慮なく足を運んでください。昨年以上の求人が本学に寄せられていますので、いろいろな企業を紹介できると思います。

また、現3年生もいよいよ就職活動が本格化します。特に、2016年卒から就職活動開始時期が今までより3カ月先送りとなり、それに応じた対応も必要となりますから、本学が提供する豊富な就職支援メニューを大いに活用して、早めにしっかり準備して就職戦線を勝ち抜いていただきたいと思います。



個別企業説明会

みずほフィナンシャルグループ内定

経済学科4年 北島 光二
(山口県立徳山高等学校出身)



私は「企業、そして経営者を支援したい」という思いから、金融業界を中心に就職活動を行いました。その中でも、最も企業の経営課題に対して向き合っていくことが出来ると感じた、みずほフィナンシャルグループを志望しました。

就職活動中、周りの就活生の方が優れて見えたり、自分の自信を無くす場面が多々ありました。そんな時、何度も自問自答し、今まで頑張ってきたことを振り返りました。大学時代、サークルやゼミで苦しい時も一生懸命頑張ってきた経験が、私を勇気づけてくれました。そして、しっかり準備してきたことで、あとは面接官に自分の考えや想いを伝えるだけだと思えるようになりました。今まで自分が頑張ってきたこと、そしてしっかり準備してきたことが自分の大きな自信に変わりました。

就職活動では様々な方々との出会いがあり、多様な価値観や考え方に触れることが出来ました。様々な人の意見や話を聞くことで、自分の価値観が広がり、就職活動を通じて成長することが出来ると思います。皆さんも、絶対に入社したいと思える企業に出会い、納得のいく就職活動が行えることを心からお祈りしています。

日本放送協会 記者職内定

公共マネジメント学科4年 福島 康児
(広島県立尾道東高等学校出身)



私が今回、就職活動を通じ大切だと感じたことは、自分のぶれない軸(目標)を持っていること、そして就職で武器にしようとする経験がその軸に準じていることです。

就職面接は言わば「自らの経験・能力のPRの場」です。私が共に面接を受けた就活生にも、サークル経験や留学経験を武器にする学生は多くいました。行動力とは便利な言葉で多くの学生が自分の武器として口にします。しかし、より大切なのはその行動力で起こした何かしらの行動が、自分の夢や目標に向かったものであるかという点だと思います。ただ留学した、部活動を頑張ったという学生は山ほどいます。

私は就職を意識した2年の頃から、スポーツに寄り添い、その魅力をより多くの人に伝えたいという思いを持ち、その夢を叶える為MLBでのインターンシップへ参加する等行動を起こしました。その思いが確固たるものだった為に、面接で一度も不安を感じることなく、自信を持って向かって行けたと感じています。同様に面接を潜り抜けた内定者の多くが各々目標をはっきりと持っています。

自分の軸をしっかりと持ち、目標に向けアクションを起こした学生なら、どんな企業相手でも臆さず立ち向かうことができます。私は就職活動を通じてそう感じました。

岡山県庁内定

国際商学科4年 向原 諒
(岡山県立玉島高等学校出身)



私は公務員を第一志望にし、就職活動を行いました。民間企業を目指す方とは取り組みが異なるかもしれませんが、それほど違いはないと思います。

私が就職活動を通じて心がけていた点が2つあります。

まず一つ目は、「自分の志望する自治体(民間企業)で、そこで働く姿を想像する」ということです。積極的に説明会に参加し、自分がそこでどんな仕事をしたいのかを考え、将来の自分をイメージすることは大切だと思います。

二つ目は「自分の考えをしっかりとみつ」ということです。内定を勝ち取るためには欠かせないものだと思います。自分の考えをもつために、日頃から意識しながら生活すれば、自ずと身についてきます。

公務員を志望する方は、計画を立てて勉強に取り組む必要があります。勉強のリズムがとれない方は大学の公務員講座、公務員予備校を利用するのがいいと思います。公務員だけでなく民間企業との併願も選択肢に入ると、就職活動における不安を軽減することができます。民間企業との併願を考えると、効率よく勉強をする必要があるということも念頭に置きましょう。

最後に、就職活動は内定がすぐ出る方もいれば、そうでない方もいます。自分のペースで就職活動を進め、納得のいく内定を勝ち取りましょう。焦ることもあると思いますが、『自分なら絶対大丈夫!』と自分に自信をもち、頑張ってください。

インターンシップ

実社会で様々な就業体験ができるインターンシップ

教授 難波 利光 (キャリア委員会副委員長)

本学キャリアセンターでは、学生のキャリア教育の一環としてインターンシップによる就業体験学習を行っています。インターンシップに参加した学生は、様々な事業体において貴重な就業体験を得ることができます。また、学生の職業意識を育成し、就業力向上に繋げることができます。

大学主催でインターンシップが行われるようになってから14年目になりますが、多くの学生が学内インターンシップに参加するようになりました。海外の事業体に学生を派遣する国際インターンシップも大学主催で行っており、中国(青島)へ4名、韓国(釜山)へ4名、シンガポールへ6名の学生を派遣することができました。また、学生が自主的に事業体を探して行う学外インターンシップも数多くの学生が参加しています。その中で4事業体4名の学生が単位認定を申請しました。全体として60事業体・85名の学生が、インターンシップに参加・単位申請を行っています。

学内インターンシップはキャリア教育の一環として行っており、派遣前には学内で事前学習を行います。インターンシップを行った後も、報告書の作成指導・報告会での発表など、様々な面から学生の就業体験をフォローする体制を整えています。また、キャリア教育科目として単位認定されます。

下関市産業振興部

公共マネジメント学科3年 杉原 由希 (山口県立青嶺高等学校出身)

私は下関市産業振興部のインターンシップに参加しました。入学当初から公務員という職に興味がありましたが、公務員の具体的な業務や、地域との具体的なつながり方など、分からない部分がありました。そこで、公務員への理解をさらに深めたいと思いインターンシップに参加しました。

産業振興部は産業や商工業の振興を通し、地域の活性化を図っています。公務員は市民を対象とした業務が多いと思っていましたが、この部署では主に企業や事業者を対象とした業務が多く、自分がイメージしていた業務と実際の業務との違いを知ることができました。

今回、産業振興部の業務である、商店街空き店舗調査や企業・施設訪問など様々な業務に携わることができました。業務を行う中で、まず下関市の商工業の実態を把握することができました。そして現在の課題やそれらに対する対応策と一緒に参加した仲間と考えることができました。また、商店街空き店舗調査や企業訪問を行う中で、下関市職員の方々と企業や商店街の方々のつながりの強さを知ることができました。

今回インターンシップに参加したことで、業務内容だけでなく、公務員と地域との具体的なつながり方、ビジネスマナーについて知ることができました。今回学んだことを参考にしながら就職活動の準備をしていきたいです。



株式会社名門大洋フェリー

国際商学科3年 山口 織恵 (広島県立尾道東高等学校出身)

私は株式会社名門大洋フェリーのインターンシップに参加しました。私がインターンシップで学んだことは、主に二つあります。一つ目は、仕事の中身を自分の目で見て知る事の大切さです。フェリー会社ということで、人を運ぶイメージが強かったのですが、実際には貨物の方が圧倒的な割合を占めていることに驚きました。貨物を一度にどれだけ運ぶことができるかが重要になってくるので、運送会社に営業の電話をすることも大切になってきます。運送会社がフェリーを利用することによって、運転手の人件費の削減や人手不足に対応できるのはとても効率的だと思いました。二つ目は、社会人として働くうえで、信頼関係がとても大事だということです。競争相手もいるなかで、選ばれるためにはお客様との信頼関係を築いていくことが必要だと実感しました。また、日々の業務を円滑に行うためにも社内の人間同士の繋がりも欠かせないと思いました。実際の業務はあまり体験していませんが、業務内容や職場の雰囲気などを知ることができ、とても充実した5日間となりました。この体験を今後活かしていくには、自分が興味のあるものには踏み込み、様々な業種を理解していけば良いのではないかと考えました。



株式会社トライアルカンパニー(中国・青島市)

国際商学科3年 向井 あずさ (愛媛県立松山北高等学校出身)

私は8月18日(月)から8月22日(金)までの5日間、中国・青島市でインターンシップに参加しました。私が海外インターンシップに参加した理由は、よりリアルな中国の状況(経済状況など)を実際に自分の目で見て体感することが出来るのではないと思ったからです。

インターンシップ先では本当にたくさんの方にお世話になりました。業務面でサポートしていただいたり、ほとんど日本語の分からない新入社員の方と一対一の対談の機会を用意していただき、中国語だけで会話する機会も与えていただいたり、充実した日々を過ごせました。そして業務面だけでなく、ほとんど毎日仕事終わりに会社の方に観光地に連れて行ってもらうなど、本当に良くしてもらいました。今回のインターンシップでは、中国について、そして企業について学べただけでなく、私にとっては中国の方の優しさ・温かさを実感できた本当にいい機会になりました。この経験を残りの大学生活、そして就職活動にぜひ活かしたいです。そしてまた機会があれば、ぜひ中国に行きたいと思います。



国際交流

外国研修

自分を見つめる時間

経済学科2年 森田 人気 (山口県立徳山高等学校出身)

私は1ヵ月間、オーストラリアでホームステイをしながらクイーンズランド大学付属のICTEという語学学校で英語を学びました。ICTEでのクラスメイトは年齢も出身国も様々でしたが、皆ICTEで英語を学ぶ目的をしっかりと持ち、楽しみながらも真剣に英語を学んでいました。一方で、私には将来の具体的な計画がなく、クラスメイトやホストファミリーに卒業後の進路を聞かれたときに上手く話すことが出来ませんでした。英語の能力の有無以前に、自分の考えが浅いせいでコミュニケーションが図れないということはとても悔しかったです。しかし、このことがきっかけでこの1ヵ月間は日本にいるときよりも自分自身について考える時間を多く持つことが出来ました。これからも、この悔しさとオーストラリアでの多くの刺激的な体験を胸に様々なことに真剣に取り組んでいきたいです。



で社会状況に関しても日本とは全く異なっています。民族性や宗教の違い、そして身近な場所で大規模なデモが頻繁に起こるという状況に、戸惑うことも多々ありました。しかし、異文化の中に身を置くことで、自分の考えを貫き通すのではなく、様々な人の考えや行動を理解していくことの大切さを学ぶことが出来ました。

異国トルコでの生活を通して、日本では得られなかったものを得られ、また、日本を見直すことも出来ました。留学先をトルコに選んだからこそ出来た素晴らしい経験を糧に、今後も励んでいきたいと思っています。



日本を飛び出して新しい世界に出会う

国際商学科3年 下田 修嗣 (京都府立宮津高等学校出身)

英語が話せるようになれば世界中で友達が作れる。そんな思いで私はアメリカに留学することを決意しました。初めてアメリカへ到着した時に見た大きな車、聞こえてくる様々な言語、街の景色、すべてが新しく刺激的でした。

行ったばかりのころは、まともに英語を話すことも聞き取ることも難しく、もどかしい思いをしたことを今でも思い出します。少しでもネイティブの発音に近づけようと何度も繰り返し音を聞いたり、自分の発音を録音したりしていました。英語を上達させるための一番の方法は友達を作ることだと思いました。会話の中でよく使うフレーズや話し方を身につけるには友達と話してマネをすることが一番の近道だと思いました。

留学の魅力は語学習得だけでなく、新しい世界に触れられることでもあると思っています。日本では絶対に見ることができない景色がそこには広がっています。思い切って日本を飛び出し、自分の目でみて、肌で感じてきてください。



韓国・釜山広域市での外国研修を経験して

経済学科2年 宮田 桃子 (鹿児島県立武岡台高等学校出身)

この夏、韓国の外国研修で2週間東義大(釜山広域市)に通いました。最初の授業で筆記と会話のテストがあり、クラスが分けられました。授業は、午前90分の2コマ、午後はチューターとの勉強が90分ありました。授業は韓国語と日本語の両方で行われ、聞き取りの練習にもなりました。また、この研修では韓国文化も学びました。テコンドーの体験ではその規律正しさと力強さを感じました。市場では韓国名物だけでなく、CDや雑貨などが安く売られていて、お店の人たちがフレンドリーなのが印象的でした。

2週間充実した毎日を送ることができましたが、語彙力の無さや正しい発音という課題も見つけました。これからはこの課題を克服できるように頑張ろうと思います。



留学

アジアとヨーロッパを繋ぐ国、トルコでの一年間

経済学科3年 土肥 瑞希 (徳島県立城ノ内中学校・高等学校出身)

トルコで約1年間、留学生として生活を送りました。トルコでの生活が始まった当初は、英語での授業についていくことが出来ず、悔しい思いをすることもありましたが、少しずつ授業の内容をより深く理解出来るようになりました。

また、友人との関係やトルコでの生活を通して、多くの発見や驚きを得られました。日本から遠く離れたトルコでは文化、宗教、そし

中国語上達の秘訣は青島ビール?!

国際商学科3年 今村 飛鳥 (鹿児島県立鹿屋高等学校出身)

2013年9月から1年間中国に留学してきました。みなさんは、青島市といえばどんな場所を思い浮かべますか? 青島市は中国山東省南部の都市で、ドイツの植民地になっていたため、ドイツ風の建物があり、ビールの生産が盛んで、現在もドイツ文化を残しています。海辺のリゾート都市としても人気があり、夏には海水浴客が大勢押し寄せます。

ところで、みなさんは青島ビールをご存知でしょうか? 青島ビールは中国で最も古いビールの1つです。スッキリとしたノド越しを重視した味わいで、とても美味しいです! 青島では何処でもこの青島ビールを売っています。私は中国人や他国からの留学生と交流を深めるために何度も青島ビールの力を借りました。どんな国の人も一度一緒に青島ビールを酌み交わせば不思議と仲良くなり、「また一緒に遊ぼう!」となります。私自身の中国語能力が上達した秘訣も青島ビールだと思っています。

みなさんにもぜひ現地の雰囲気味わいながら青島ビールを飲みながら交流を深めてもらいたいです。



ルートヴィヒスハーフェン経済大学(ドイツ) との交換留学協定を締結しました

教授 桐原 隆弘 (国際交流委員会副委員長)

このたび、ドイツ連邦共和国南西部に位置するラインラント＝プファルツ州立ルートヴィヒスハーフェン経済大学 (Ludwigshafen University of Applied Sciences, LUAS) との交換留学協定を締結いたしました。同大学は学生数約3,000名の、ビジネス関連諸部門の教育・研究に特化したドイツでは珍しいタイプの大学で、国際的環境の急激な変化に対応できるビジネスパーソンを育成することを目標としています。

風光明媚なライン川のほとりにある「東アジアセンター」は、LUAS最大の特徴の一つとなっている東アジア国際ビジネスマネジメント部門を担います。ここに在籍する学生は、経済・経営を専攻する傍ら日本語または中国語を副専攻として学び、3年次には提携校の一つで1年間留学することが義務づけられています。このたびの交換留学協定により、本学は同大学の留学先の一つとして新たに加わったわけです。

もちろん、本学からLUASへの留学(1年間)も可能です。早速来年度4月には、意欲のある2名の学生をドイツへ派遣する運びとなりました。

提携に先立ち昨年11月には、東アジアセンター所長のフランク・レーヴェン教授に政治・経済ニュースの独日比較に関して本学でご講演を行っていただきました。LUASと本学には大学として目指す方向に多くの共通点があり、今後ますます教育・研究交流を深めてまいりたいと考えております。



「世界の厨房から」を終えて

国際交流会ともだち部長 国際商学科3年 長尾 蛍
(福岡県立門司学園高等学校出身)

7月4日(金)に国際交流会ともだち主催の「世界の厨房から」を行いました。今年は中国、韓国、オーストラリア、トルコ、タイ、ベトナム、日本の7ヶ国の料理を用意しました。なかでも中国と韓国の2ヶ国は、主菜と副菜の2つを作りました。各国ともとても好評で「あっ」という間に完食となりました。サークル部員と留学生が試行錯誤し、試食会を重ねた甲斐があり、非常に嬉しく思いました。

また、最後には日本舞踊も披露していただきました。留学生にとっても私たちにとっても日本の文化を感じられる楽しい時間となりました。

この「世界の厨房から」は、年に一度世界の食文化に触れることができる貴重なイベントです。私たちもこのような機会を大事にし、これからもイベントがより充実したものになるよう努めていきたいと思っております。



駐日英国臨時代理大使記念講演 「女性の社会参画 日英比較」の司会を経験して

国際商学科4年 中川 秀汰 (長崎県立島原高等学校出身)

7月17日(木)ジュリア・ロングボトム駐日英国臨時代理大使をお迎えして講演会が開催されました。本学の学生から市民の方々まで約150人が参加して講演に聞き入りました。

講演では、臨時代理大使ご自身の経歴に触れながら、英国女性の社会参画について語り、それを踏まえて、女性の社会参画の日英比較をデータに基づいて明らかにし、最後に日本における女性の今後の社会参画の展望について述べられました。女子学生だけでなく、男子学生にも学ぶ部分が非常に多く、「女性が真に働きやすい社会とは何か」を再考するきっかけになりました。

大使館の方の講演の司会を担当したのは初めてだったため非常に緊張しました。「女性の社会参画」についての話題も非常に興味深いものでしたが、将来的に海外の大学院で外交問題について学びたいと考えている私としては、臨時代理大使のケンブリッジ大学での経験談についても参考になり、将来の夢を見つめなおすきっかけになりました。



第45回下関市立大学E.S.S弁論大会

E.S.S.弁論大会チーフ 国際商学科3年 村田 智枝
(山口県立小野田高等学校出身)

7月5日(土)、本学にてE.S.S.主催の第45回下関市立大学英語弁論大会を開催しました。今年は全国7大学から7名の学生が参加しました。

出場者は、事前に準備し発表を行うPrepared Speechと大会当日にランダムに与えられたテーマについてスピーチするExtemporaneous Speechを披露し、その総合得点で競い合います。

Prepared Speechでは自分のスピーチ能力を、Extemporaneous Speechではそれに加えて即興でスピーチを行う能力を発揮することが重要なポイントとなってきます。ジャンルが偏らない様々なスピーチを聴くことは大変面白く、同時に英語学習の意欲も掻き立てられます。

本学からは、吉村つむぐさんが出場し、素晴らしいスピーチを披露しました。「I obtained it through experience」というタイトルのスピーチをし、観客の方々にも楽しんでいただけたようで、本学E.S.S.部員も心から喜んでいました。

今回の英語弁論大会に参加された皆様、お疲れ様でした。そして、ご指導にあられた先生方やご来場の皆様のご協力にも感謝致します。来年度の第46回大会にも是非ご観覧にいらしてください。



2014年度下関未来大学

教授 土屋 敏夫 (地域共創センター長)

平成26年度の下関未来大学が、6月8日(日)の開校式を皮切りに本学でスタートしました。平成24年度から開始された市民向けの講座で、「関門地域学」、「東アジア」、「まちづくり・ひとづくり」の3学科によって構成されています。各学科10回の講義を通じて、市民の方に健康で心豊かな生活を営むことのできる学習の場を提供し、地域に根ざし社会に貢献できる人材を育成することを目的に、下関市と下関市立大学が共同で開講している講座です。各学科では、本学教員の他、地域問題に詳しい外部講師を迎え、下関に関わる地域・産業・経済・歴史などの様々なテーマについて講義しています。本年度はまちづくり・ひとづくり学科を新たに開講し、住民自治によるまちづくりのあり方について、実践事例の紹介を交え学んでもらっています。まちづくり・ひとづくり学科の受講生には、地域分権への理解を深めていただき、本学での学びを活かして地域のリーダーとして活躍されることを期待しています。



下関ユースカレッジ2014

教授 木村 健二 (学部長)

「未来を担う若者に下関を幅広く知ってもらおう」という趣旨で始まり第3回目となる今年度は、高校生23名、中学生2名、合計25名の参加をみた。第1日目(8月18日)は、中尾友昭市長の「下関を知っていますか～下関を再発見しましょう」、下関市立長府博物館田中洋一学芸員の「下関の歴史～下関の幕末人物史」、そして市大からは木村の「下関の産業と貿易」と題する講義が行われた。第2日目(8月19日)は市内見学で、株式会社中冷の工場、市消防学習館・火消鯨、唐戸市場(「鯨は海のは乳類」と題する下関海洋科学アカデミー鯨類研究室の石川創室長による講義)、下関国際ターミナルの税関、入国管理局、関釜フェリー・はまゆうを訪問した。第3日目(8月20日)は「生きる力を支える食」と題して、市食生活改善推進協議会の家根内清美会長による食育指導・講義があり、最後に本学学生との懇談を行った。本学学生は、学生広報委員会や留学生を中心に9名が参加し、大学とはどういうところであるかについて、それぞれ体験をもとに懇談し、大いに盛り上がった。最終的に修了証書を授与された生徒は22名であった。



春学期卒業式

9月30日(火)、本館Ⅱ棟5階大会議室において、平成26年度春学期卒業式・学位記授与式が挙行されました。今年度は、経済学科7名、国際商学科12名の合計19名が本学を巣立っていきました。学長は告辞の中で、「皆さんは、今まさに社会に飛び立つのです。様々な問題と関わる中で、皆さんの対応が問われることが続くでしょう。その際、これまでの大学生活で形成された何らかの人生観、世界観が活きてきます。さらに、これからも大きな人生観、世界観を形成し続けなければなりません。愛に満ちた、スケールの大きい人間になってください。」と述べられました。本学は、全国各地で活躍する皆さんを、下関から応援しています。



名誉教授称号授与式を行いました

本年3月31日付で退職された川本忠雄前教授及び下田守前教授に、名誉教授の称号が授与されました。学長からは、両氏に対して、次のような言葉がありました。

川本氏は本学では大久保彦左衛門のようなご意見番的存在で、様々な節目において貴重な意見を頂戴した。市大広報第72号の退任挨拶にある、「全国的に大学が専門学校化し、本当に深く考える学生を育てていないように思う。『人生に揺さぶりをかけ、自らの存立基盤を疑ってみる』教育の再生が必要」とのお言葉は、本学の今後の課題となるであろう。

下田氏は数学者ということもあって、多くの収集した資料に裏付けられた論理的思考に基づき、様々な問題を解決していかれた姿が印象的である。また、カネミ油症事件や下関沖合人工島(長州出島)計画などの環境問題への造詣が深い。下田氏と会話をしていると細かいことにまで内容が及び、堅い人間と思われることがあるが、非常にラフな一面も持ち合わせる、愛すべき人物である。

今後の両氏のご活躍を期待します。



平成26年度 防災訓練の実施について

9月24日(水)に、学生、教職員及び地域住民の約160名が参加し、防災訓練を実施しました。台風16号から変わった温帯低気圧の影響により、屋外で実施を予定していた水消火器を用いた消火訓練、屋内消火栓を用いた放水訓練、避難器具を用いた避難訓練が中止となり、下関北消防署員による消火器及び屋内消火栓の使用方法的説明がありました。

署員からは、8月に発生した広島での災害は、決して対岸の火事ではなく、下関でも起こりうるものである。普段から災害発生に備えるとともに、災害発生時には「自助・共助・公助」の組み合わせにより、柔軟な対応をしてもらいたい、との指導がありました。



第53回下関市立大学大学祭(馬関祭)

伝統を継承しつつ・エコで・台風に泣いた大学祭

教授 大内 俊二 (学生委員会副委員長)

第53回馬関祭が10月11日(土)から13日(月)の3日間の日程で開催されました。

今年のテーマechoには、「環境に配慮したeco活動が、ここ下関市立大学祭から地域・社会へとこだま(echo)し、今後も長く続く活動にしたい」という思いが込められているということでした。企画は例年通り、屋外メインステージイベント・教室での展示発表・模擬店・体育館でのライブの4本柱からなるものでした。アカデミックな企画としては、木村ゼミ学生による2件の研究発表がありました。学友会館2階にある和室では、茶道部主催の茶会が毎年開かれております。ご指導頂いている高木先生に何うと、大学祭茶会は30年以上続いているとのことでした。このような伝統を大切にしたいものです。

大型台風19号の九州・四国接近にともない、スケジュールの変更が余儀なくされました。花火の打ち上げが初日になり、12日後半の屋外メインステージでのイベントは、場所をB303教室に変更しました。また暴風雨に備え、模擬店のテントも12日のうちに撤収されました。さらに最終日のすべての企画が中止となりました。これまで念入りに準備してきた大学祭実行委員会や各企画を推進してきた人々たちにとっては、さぞかし残念なことだったと思います。

ゴミ分別の徹底や会場をクリーンに保つ工夫など、eco活動は例年以上によくこなされていたように思います。大学祭実行委員会の皆様、本当にお疲れ様でした。



波乱

第53回大学祭実行委員会委員長 公共マネジメント学科3年 田村 隆太郎 (鹿児島県立加世田高等学校出身)

「波乱」。第53回馬関祭を一言で表すとこの言葉が最もふさわしい。今年最大級とされる台風19号の接近により、多くの変更が余儀なくされた。

ステージパネル、校門パネルは、今年度の大学祭のテーマ「echo」を全面にアピールした素晴らしい出来栄となった。しかし、台風の影響を考慮した結果、通常よりもステージを低く構えることになり、完全版を掲げることは出来なかった。ペンキまみれになりながら作成にあたってくれたメンバーの姿が想起されたが、安全第一を考慮して苦渋の決断を下した。

また、大学祭前から、悪天候によって最終日のプログラムが中止になった場合の短縮プログラムの作成を開始した。当日を迎える前から中止を考えなければならないという状況にやり場のない気持ちであった。

結果、最終日は全てのプログラムを中止することになった。中止に伴うプログラムの変更、短縮にご理解いただいたサークルの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいである。

天候には恵まれなかったが、周囲の人々に恵まれていたと思う。地域の皆様、ご協賛企業の皆様、本学教職員の皆様、サークルの皆様、そして、共に多くの困難を乗り越えてきた大学祭実行委員会メンバーに心より感謝したい。



SCU国際交流会館厨房改装記念「留学生と触れ合おう!!」

准教授 重田 美咲

7月26日、「SCU国際交流会館厨房改装記念-留学生と触れ合おう!!-」が開かれました。今回の会は、国際交流会館の厨房を改装したことを機に留学生との交流をより一層深めていただくために開かれたもので、大学の関係者だけでなく、地域の方々にもご参加いただきました。今回の改装で、換気扇やシンクが新しくなり、大きなコンロも取り付けられました。会では、留学生が自分の出身大学や出身地域に関する紹介をパワーポイント使って行いました。その後、新しい設備を使って留学生が作った各国の料理を参加者全員で味わいながら、留学生の出身国の話や日本での異文化体験の話などをして、交流を深めました。「国際交流会館」と言えば留学生寮というイメージが強いですが、寮として使用されているスペースの他に、今回の厨房や談話スペース、教養室(会議室、洋室、和室)といった入居者以外でも使用できるスペースがあります。今回の厨房の改装を機に国際交流会館が広く知られ、広くご利用いただき、様々な方々との交流の場となれば…と思っています。



少子・高齢化時代の市政を考える

講師 松本 貴文

公共マネジメント特講は、下関市長や市職員の方々を講師にお迎えして、現地でのエクスカージョンをまじえながら実施される科目です。本年度は、「人口減少時代の高齢者福祉と子育て支援」というテーマを設定し、福祉部、こども未来部、財政部の職員の方々を中心に、各方面から下関市の置かれている現状や実施されている施策、さらには今後の課題についてお話していただきます。

2014年は、反響を呼んだ増田レポート等の影響もあって、あらためて地方の人口減少に関心が集まりました。下関市でも、人口は減少傾向にあり、少子・高齢化は避けてとおることのできない懸案事項となっています。もちろん、住民の生活に直接かかわる基礎自治体として、市も多様な対策を講じていますが、次世代を担う学生にとって、福祉や子育て支援の現場は縁遠く、普段なかなか目にする事ができない場となっています。この授業では、そうした現場での取り組みと課題を理解するだけでなく、講師の方とともに考える作業をとおして、公共における行政の役割についての理解を深めていきたいと思います。



平成26年度 サークル春季大会成績

サークル名	大会名	種目名	成績	選手名	
準硬式野球部	中国地区大学準硬式野球春季リーグ戦	1部	4位		
軟式野球部	西日本地区学生軟式野球春季リーグ戦	1部	3位		
		ベストナイン	外野手部門	川島 慎平	
ハンドボール部	第53回中四国学生ハンドボール選手権春季リーグ戦	Ⅲ部	3位		
フットサル部	第一回山口学生フットサル交流大会		優勝		
	全日本大学フットサル大会山口県大会		2位		
	北九州カップ		2位		
男子バスケットボール部	SUリーグ		優勝		
	山口県学生バスケットボール春季大会	1部	6位		
女子バスケットボール部	SUリーグ		優勝		
	山口県学生バスケットボール春季大会		5位		
男子バレー部	中国大学バレーボールリーグ戦春季大会	チャレンジリーグ	ベスト8		
硬式庭球部	北九州・下関地区大学体育大会(硬式庭球競技)	団体男子	2位		
		団体女子	1位		
		男子シングル	3位	藤田 悠介	
		男子ダブルス	2位	下野 幸翔・永海 豪	
		女子シングル	1位	瀬戸口 詩織	
			2位	森橋 愛叶	
			3位	熊野 智子	
		女子ダブルス	1位	瀬戸口 詩織・森橋 愛叶	
		中四国学生テニス春季大会	男子シングル	ベスト16	藤田 悠介
		全日本大学王座決定試合	男子団体3部	4位	
中国・四国地区大会	女子団体4部	1位			
バドミントン部	北九州・下関地区大学体育大会(バドミントン競技)	団体男子	ベスト8		
		団体女子	ベスト8		
		男子シングル	ベスト8	伊藤 勇貴	
		男子ダブルス	ベスト8	伊藤 勇貴・矢野 敬祐	
		女子シングル	ベスト8	脇元 彩花	
陸上競技部	北九州・下関地区大学体育大会(陸上競技)	男子200m	5位	田内 祥汰	
		男子400m	2位	丸山 裕生	
			3位	山口 勝之	
		男子800m	7位	小野 勇輝	
			8位	徳留 悠己	
		男子5000m	1位	東 祐弥	
			2位	山口 勝之	
			3位	奥村 康大	
			6位	倉田 佳朋	
		男子110mH	3位	池田 聖也	
		男子4×100m	3位	福渡 大旗・田内 祥汰 越智 敦史・松本 隆之	
		男子4×400m	4位	末國 知弥・徳留 悠己 城下 知範・小野 勇輝	
		男子走り幅跳び	2位	松本 隆之	
		男子三段跳び	5位	北村 拓也	
女子走り幅跳び	2位	佐々木 あかり			
弓道部	北九州・下関地区大学体育大会(弓道競技)	団体男子	6位		
		団体女子	3位		
剣道部	市内職域・地域剣道選手権大会	団体	ベスト8		
空手道部	北九州・下関地区大学体育大会(空手道競技)	男子形の部	3位	堀田 洋史	
少林寺拳法部	第42回山口県少林寺拳法大会	単独演武 一般女子有段の部	3位	森 紫央里	
		単独演武 一般男子級拳士の部	1位	吉田 大紘	
		組演武 一般男子級拳士の部	2位	柳本 隆宏 甲斐 周平	
		第49回中四国学生大会	単独演武・有段の部	2位	北野 仁

行事記録(2014年7月～10月)

- 7月 2日 第2回共創サロン
- 4日 世界の厨房から
- 5日 第45回英語弁論大会
- 17日 第2回日本にいながら世界を知ろう
ハラスメント防止啓発講習会
- 19日 オープンキャンパス
- 24日 FDワークショップ
- 26日 第3回日本にいながら世界を知ろう
- 30日 春学期定期試験(～8月5日)
大学院修士論文中間発表会
- 8月10日 オープンキャンパス
- 18日 下関ユースカレッジ(～20日)
- 20日 春学期卒論提出日
- 9月 6日 大学院入試
- 8日 大学コンソーシアム関門共同授業(～12日)
- 12日 大学院入試合格発表
- 13日 保護者懇談会(～14日)
- 24日 履修登録開始
防災訓練
- 25日 秋学期授業開始
- 27日 オープンキャンパス
- 30日 春学期卒業式
- 10月 3日 アルコールハラスメント防止講習会
- 9日 第4回日本にいながら世界を知ろう
- 11日 大学祭(～13日)
- 14日 クリーンキャンパスデー
- 15日 第3回共創サロン
- 18日 第7回鯨資料室シンポジウム

今年度の入試スケジュール

【推薦入学・特別選抜・第3年次編入学】

試験日:平成26年11月22日(土)

出願期間:

(推薦・特別)平成26年11月4日(火)～11月11日(火)

(編入学)平成26年10月23日(木)～10月30日(木)

【外国人留学生】

試験日:平成26年12月20日(土)

出願期間:平成26年11月27日(木)～12月5日(金)

【一般選抜(前期日程)】

試験日:平成27年2月25日(水)

出願期間:平成27年1月26日(月)～2月4日(水)

【一般選抜(公立大学中期日程)】

試験日:平成27年3月8日(日)

出願期間:平成27年1月26日(月)～2月4日(水)

〈お知らせ〉

一般選抜では、地方試験会場を多数設定しています。

前期日程では下関(本学)・広島・大阪・福岡で、公立大学中期日程では下関(本学)・広島・大阪・福岡・鹿児島・高松で受験することができます。詳しくは、募集要項をご覧ください。

全国大会出場

水泳部

全国国公立大学 選手権水泳競技大会

200m自由形 出場
400m自由形 出場
植木 奈那子



弓道部

第62回全日本学生 弓道選手権大会

個人男子 出場

山西 将寛

個人女子 出場

山本 咲・平井 朝水

